

2020年4月30日 全7頁

Indicators Update

2020年3月鉱工業生産

自動車工業を中心に大幅減産も底はまだ先

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎
シニアエコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 2020年3月の生産指数は前月比▲3.7%と2ヶ月連続で低下したが、市場コンセンサス(同▲5.0%)を上回った。3月は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の自粛による内需の減退に加え、外需も欧米を中心にロックダウン措置等により経済活動が停滞したことを受け急減した。財別に見ると、資本財や自動車などの耐久消費財を中心に大幅なマイナスとなった。
- 業種別では、15業種中13業種で低下した。自動車工業(前月比▲5.1%)や生産用機械工業(同▲10.2%)などが低下に寄与した。また、出荷指数も前月比▲5.0%と4ヶ月ぶりに大幅に低下した。一方、在庫指数は前月比+1.9%と2ヶ月ぶりに上昇した。生産・出荷が低下する中、在庫を積み上げる動きが見られており、水準で見ると、現行基準の2013年以降では過去最高を更新した。
- 先行きについて、4月はさらなる低下を見込んでいる。製造工業生産予測調査によると4月は前月比+1.4%、5月は同▲1.4%となっているが(経産省による、計画のバイアスを補正した4月の先行き試算値(最頻値)は同▲1.3%)、4月に入り、自動車工業を中心に工場を停止する企業が相次いでいる。国内外ともに経済活動の自粛から稼働率が低下しており、資本財を中心に需要が急減することが見込まれる。5月以降、中国の経済活動の正常化に加えて、欧米各国では段階的にロックダウン措置を緩和する動きが見られることから、4月を底に下げ止まる可能性がある。ただし、感染拡大でさらなる減産のリスクにも留意する必要がある。

図表1：鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2019年					2020年				
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
鉱工業生産	▲1.7	+1.9	▲4.0	▲0.6	+0.2	+1.9	▲0.3	▲3.7		
コンセンサス								▲5.0		
DIR予想								▲5.8		
生産予測調査 補正值(最頻値)									+1.4	▲1.4
									▲1.3	
出荷	▲2.0	+1.8	▲3.5	▲1.4	+0.2	+0.9	+1.0	▲5.0		
在庫	▲0.1	▲0.9	+0.8	▲0.5	+0.4	+2.1	▲1.7	+1.9		
在庫率	+2.0	▲1.7	+4.0	+1.7	+0.5	▲0.3	▲2.3	+8.5		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

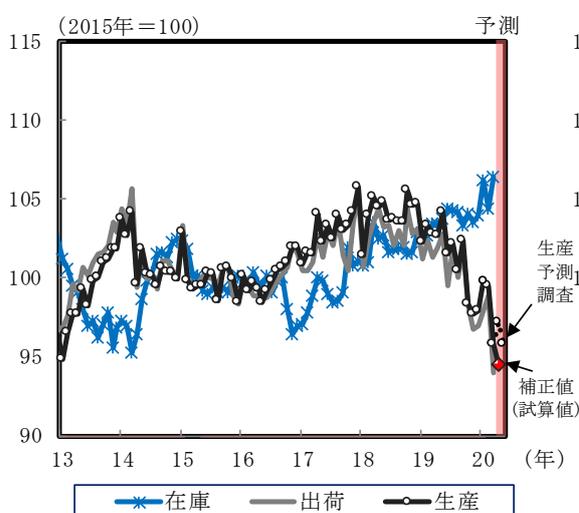
自動車工業を中心に大幅減産

2020年3月の生産指数は前月比▲3.7%と2ヶ月連続で低下したが、市場コンセンサス(同▲5.0%)を上回った。3月は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の自粛による内需の減退に加え、外需も欧米を中心にロックダウン措置等により経済活動が停滞したことを受け急減した。財別に見ると、資本財や自動車¹などの耐久消費財を中心に大幅なマイナスとなった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」から「低下している」へ下方修正した。

3月の生産指数を業種別に見ると、15業種中13業種で低下した。自動車工業(前月比▲5.1%)や生産用機械工業(同▲10.2%)、無機・有機化学工業(同▲11.0%)などが低下に寄与した。品目別に見ると、自動車工業では普通乗用車、自動車用エンジンなどが減少した。3月以降、自動車の販売台数は世界的に急減している²。生産用機械工業では半導体製造装置や産業用ロボットなどが押し下げた。また、無機・有機化学工業ではポリエチレン、エチレンなどが減少した。これらは2月に大幅に増加しており、その反動減も一部含まれているとみられる。

他方、輸送用機械工業(除く自動車工業)は前月比+11.1%と上昇に寄与した。品目別に見ると、航空機用発動機部品や航空機用機体部品等が増加している。

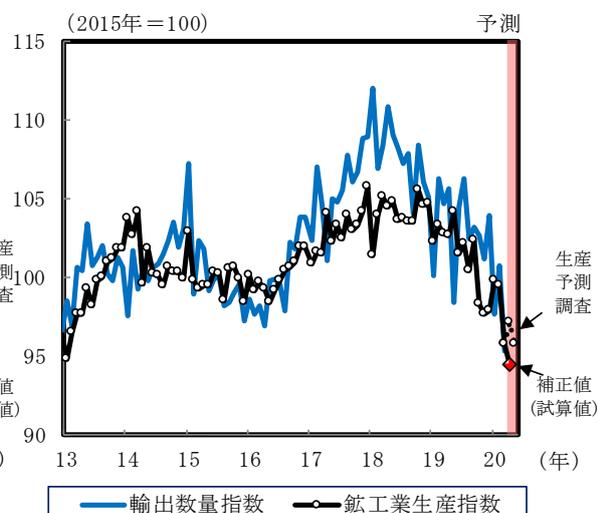
図表2：生産・出荷・在庫



(注) 生産指数の予測値(赤色)は、製造工業生産予測指数の補正值(最頻値)。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：鉱工業生産と輸出数量



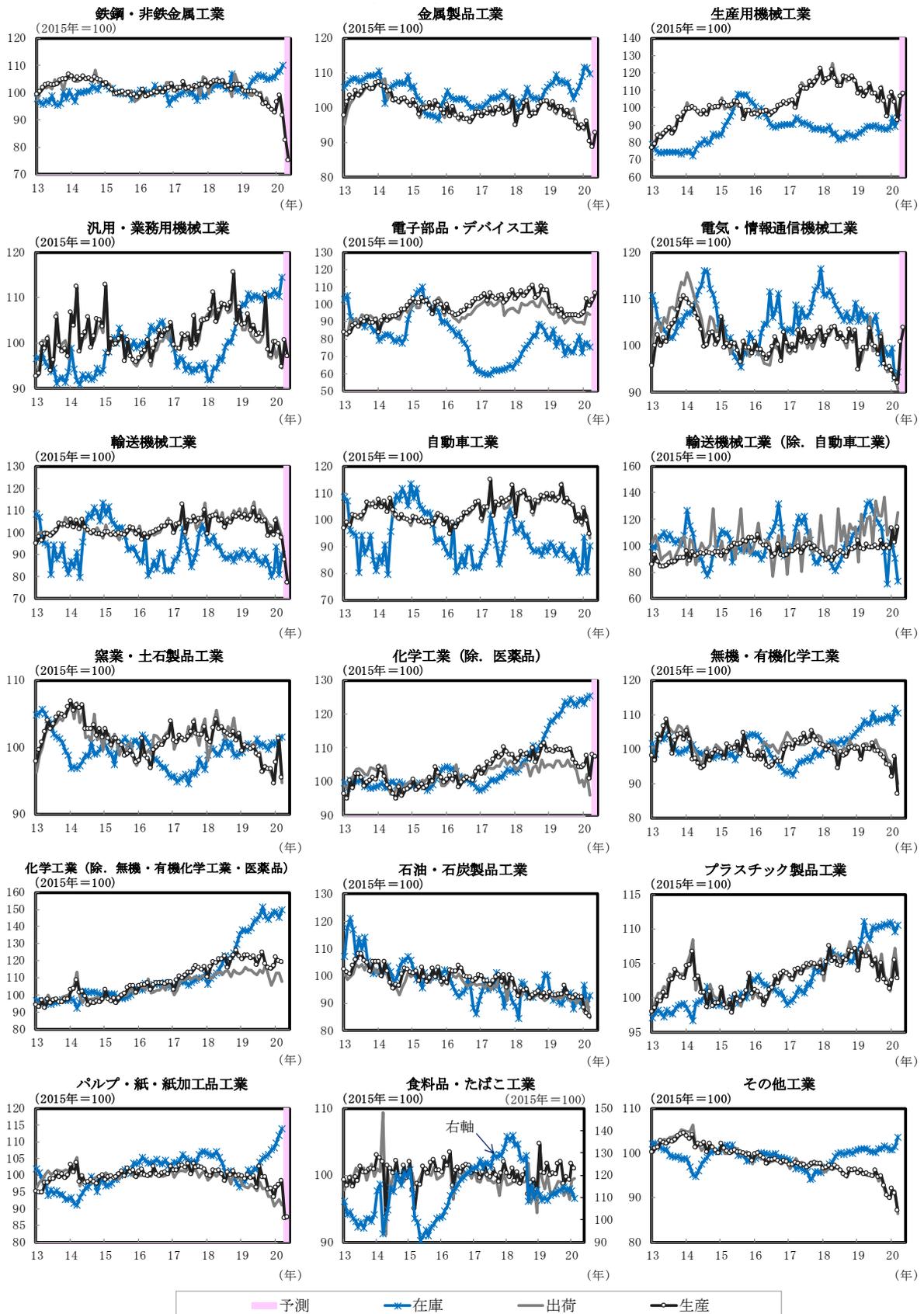
(注) 生産指数の予測値(赤色)は、製造工業生産予測指数の補正值(最頻値)。

(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

¹ 鉱工業生産において、自動車工業のうち、軽乗用車、小型乗用車、普通乗用車の85%、軽トラックの17%は耐久消費財に分類される。

² 詳細は鈴木雄太郎・小林俊介「[2020年3月貿易統計](#)」(2020年4月20日、大和総研レポート)を参照。

図表 4 : 業種別、生産・出荷・在庫



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業(除. 医薬品)の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

出荷指数は4ヶ月ぶりに大幅に低下、在庫指数は上昇し、高止まり

3月の出荷指数は前月比▲5.0%と4ヶ月ぶりに大幅に低下した。業種別に見ると、自動車工業（同▲8.3%）や生産用機械工業（同▲13.1%）、鉄鋼・非鉄金属工業（同▲5.7%）などが低下に寄与した。内需の減退に加え、3月の輸出数量指数（内閣府）は前月比▲5.5%と米国向け、アジア向けを中心に大幅に減少しており、外需の弱さも影響したとみられる。

在庫指数は前月比+1.9%と2ヶ月ぶりに上昇した。生産・出荷が低下する中、在庫を積み上げる動きが見られており、水準で見ると、現行基準の2013年以降では過去最高を更新した。業種別に見ると、自動車工業（同+12.0%）や鉄鋼・非鉄金属工業（同+2.1%）、生産用機械工業（同+5.9%）などが上昇に寄与した。

先行き：4月はさらなる減産を見込む

先行きについて、4月はさらなる低下を見込んでいる。製造工業生産予測調査を見ると、2020年4月は前月比+1.4%、5月は同▲1.4%となっている。また、計画のバイアスを補正した4月の生産指数は同▲1.3%（経済産業省による試算値、最頻値）と試算されている。予測指数に関しては、調査時点は4月10日であり、足元の新型コロナウイルスの情勢を十分に織り込めていない可能性が高い。

4月に入り、国内の自動車工場はサプライチェーンの混乱による部品調達難や欧米でのロックダウン措置等による需要の激減を受け、全社が工場の停止を発表している。生産停止日数は2～17稼働日と企業によってまちまちではあるが、内閣府の試算³によると、工場停止の影響で4月の自動車の生産は前年比▲29.1%減少する。仮にこの数値となった場合、4月の生産指数は自動車工業だけで3.9%pt押し下げられることになる。

自動車工業以外でも工場の操業を停止している企業も一定程度あり、また世界的な需要の急減から操業している工場も稼働率を低下させることが見込まれる。世界的に稼働率の低い状態が続けば、先行きの資本財需要も低下するだろう。

財別に予測調査を見ると、耐久消費財は前月比▲10.7%と大幅な低下を見込んでいる。他方、資本財（除. 輸送機械）（前月比+16.4%）や建設財（同+4.8%）などは増産を見込んでいるものの、これらは実現率がマイナスに出やすい項目である。2013年以降の実現率を見ると、資本財（除. 輸送機械）は▲3.3%、建設財は▲3.1%と製造工業全体（▲1.6%）を下回っている（**図表5**）。

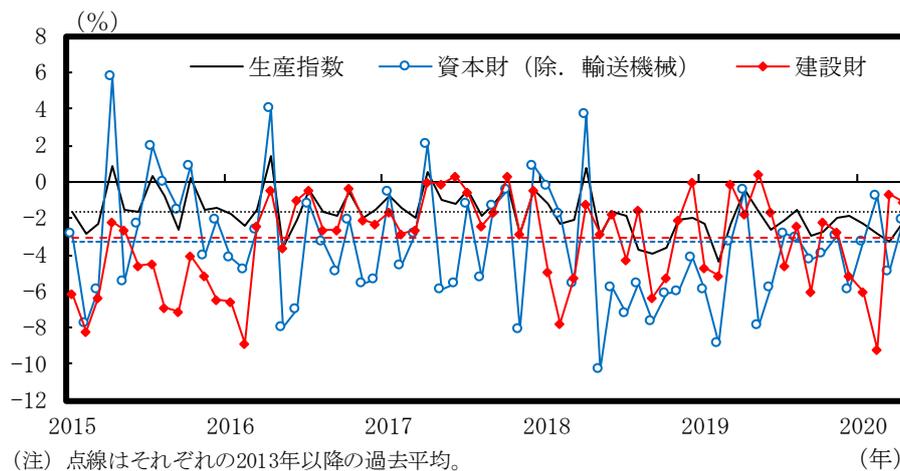
また、国内での緊急事態宣言を受けた自粛活動は当面の間続く見込みである。加えて、外需に関しても、4月上旬分の輸出額は前年比▲10.8%と大幅に落ち込んでいる。内外需ともに大幅な落ち込みによって、生産指数は予測調査に反し、大幅なマイナスとなることも十分に見込まれる。

5月以降については、中国の経済活動の正常化に加えて、欧米各国では段階的にロックダウン

³ 詳細は内閣府「[月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料](#)」（2020年4月23日）を参照。

措置を緩和する動きが見られることから、4月を底に下げ止まる可能性がある。ただし、早期に経済活動を再開したばかりに、再び新型コロナウイルスの感染が拡大することになれば、ロックダウンの再開等も予想され、さらなる減産のリスクにも留意する必要がある。加えて上述の通り、足元で在庫指数は上昇基調にあり、水準で見ても高止まりしている。新型コロナウイルスが収束したとしても、在庫調整の動きが先行することから、生産の持ち直しは感染収束以上に遅れる可能性がある。

図表 5 : 財別実現率の推移

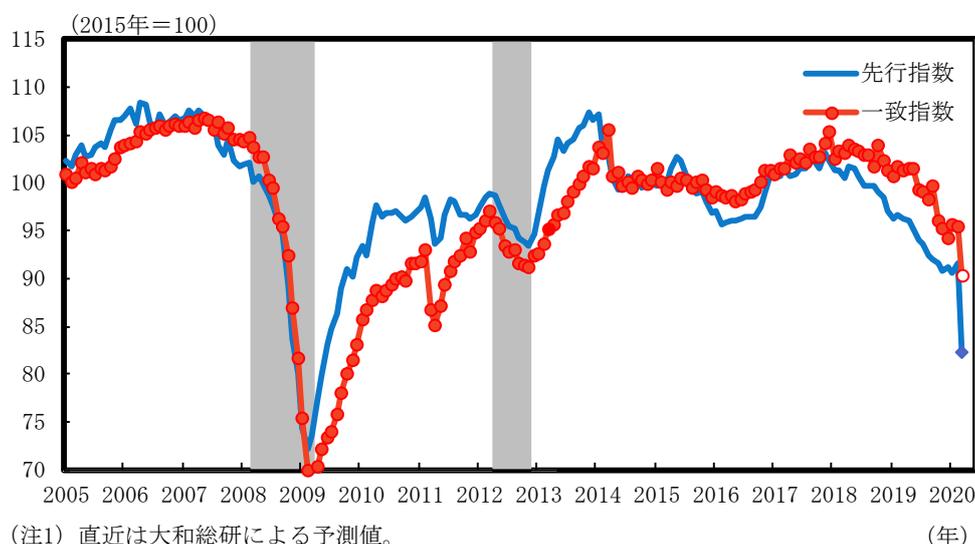


3月景気動向指数予測：一致指数は前月差▲5.0pt、基調判断は「悪化」で据え置きと予想

鉱工業生産の結果を受け、2020年5月12日公表予定の3月景気動向指数は先行指数が前月差▲9.3ptの82.4、一致指数は同▲5.0ptの90.5と予想する（図表6）。一致指数では、耐久消費財出荷指数や商業販売額（小売業）などが低下に寄与したとみられる。一致指数がこの数値まで低下した場合、前回の景気後退期より低い水準となる。予測値に基づくと、一致指数による基調判断は現在の「悪化」で据え置かれる（図表7）。悪化となるのは8ヶ月連続である。

4月以降も新型コロナウイルスの影響によって、生産・出荷指数や商業販売額などが落ち込むことが想定される。当面は一致指数を押し上げる材料はなく、基調判断も「悪化」で据え置かれることとなる。

図表6：景気動向指数の推移



図表7：一致指数による基調判断の推移

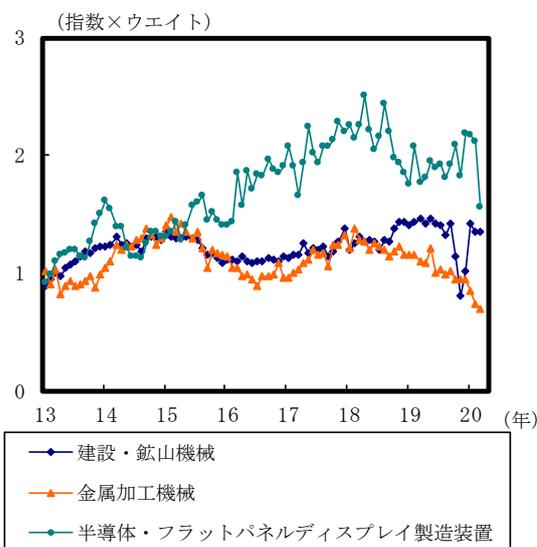
基調判断		基調判断		基調判断	
2018年1月	改善を示している	2019年1月	下方への局面変化を示している	2020年1月	悪化を示している
2月	改善を示している	2月	下方への局面変化を示している	2020年2月	悪化を示している
3月	改善を示している	3月	悪化を示している	2020年3月	悪化を示している
4月	改善を示している	4月	悪化を示している		
5月	改善を示している	5月	下げ止まりを示している		
6月	改善を示している	6月	下げ止まりを示している		
7月	改善を示している	7月	下げ止まりを示している		
8月	改善を示している	8月	悪化を示している		
9月	足踏みを示している	9月	悪化を示している		
10月	足踏みを示している	10月	悪化を示している		
11月	足踏みを示している	11月	悪化を示している		
12月	足踏みを示している	12月	悪化を示している		

(注) 2020年3月の基調判断は大和総研予想。

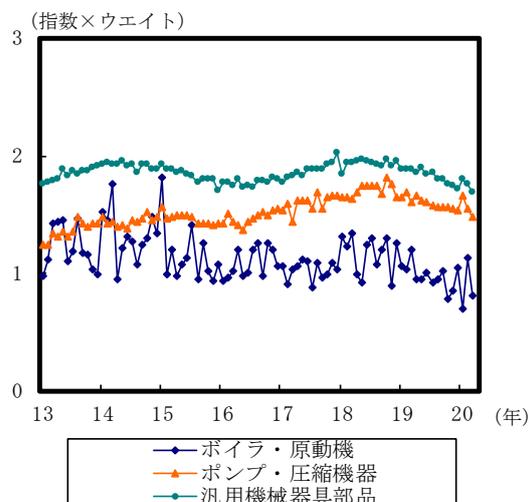
(出所) 内閣府資料より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

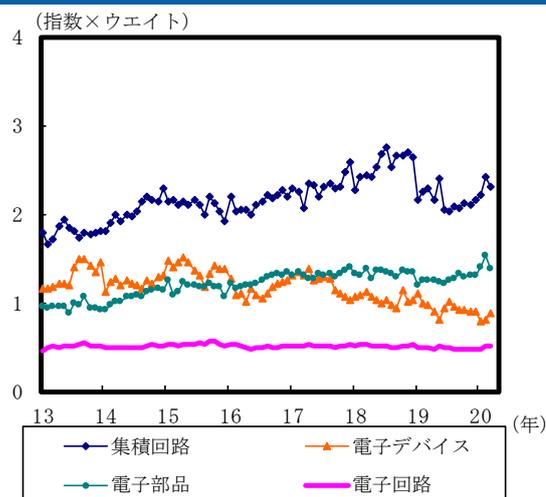
生産用機械



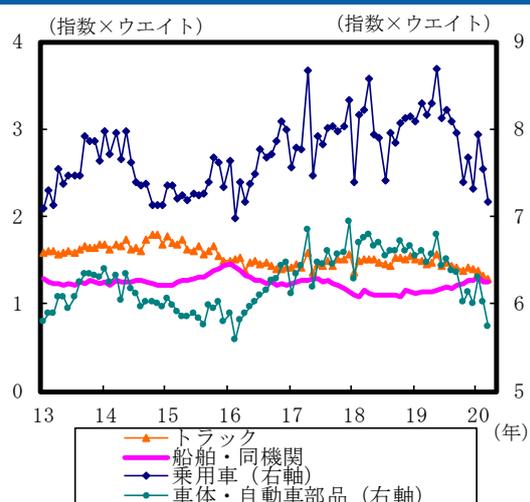
汎用・業務用機械



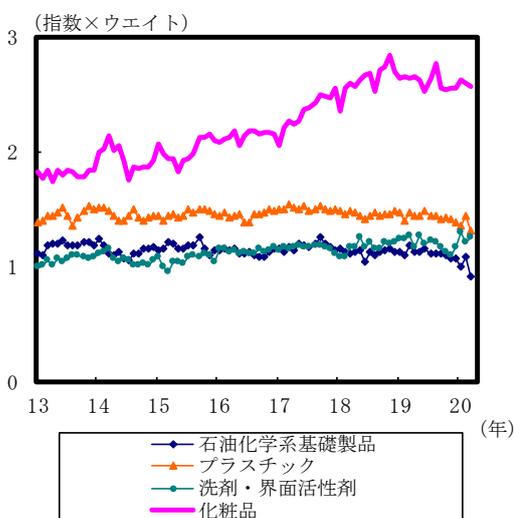
電子部品・デバイス



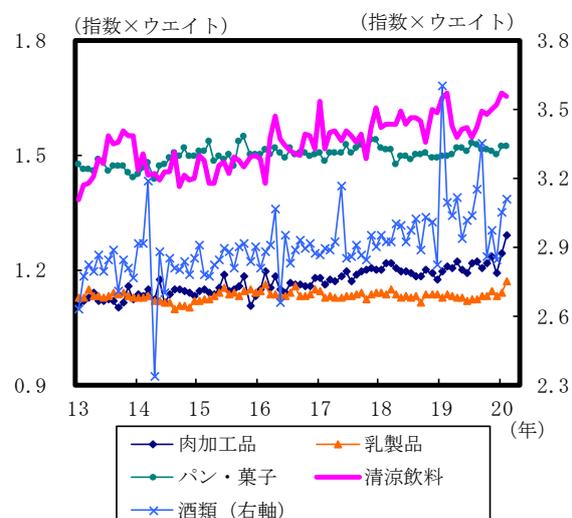
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成